

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	6月	13日	(記入者) 石井宏子	
取材参加者	石井	小西	西田	西野	宮本
	本井				
取材対象先	奈良市：来迎寺の木造阿弥陀如来坐像				

所在地	奈良市東九条町741-3				
所有者(取材 対応者)名	来迎寺 ***住職 (個人情報守秘)		連絡先 0742-61-3318		
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など： 来迎寺				
市町村 指定文化財	彫刻	1 軀	木造阿弥陀如来坐像=1987(昭和62)年5月15日指定		
	建造物	棟	名称(指定年月日)		
文化財指定理由	12世紀の優れた仏師の作と考えられる貴重な像で、平安期の定朝様の優美な表現を継承しつつ、表情や衣文には力強い表現が見られる鎌倉時代への過渡的作風を示している。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	火災報知器はない。総代さんからつけないという話は出ている。 地震については、阪神淡路大震災でも隣接する墓地の墓は幾分か倒れたが、本堂には被害はなかった。	本堂は耐震設備はないが、鉄筋コンクリート造で、今のところ劣化は見られない。庫裏が接しており、本堂の様子は良く分かると思う。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	アライグマが出た時期もあったが、庫裏の方の隙間や屋根裏を補修し、今は見られない。	僅かな隙間から、入り込むそうで、小さな穴も補修されたとのことで、安心だと思う。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	この地域だけの課題ではないものの、近年は、檀家さんや古くからの住民が高齢化、地域で仕事をされている人が減り、離れた場所に住む世代も増えて、檀家の数が減って来ている。一方で新住民が増えて、地区内での人との関わりや交流が薄くなってきている。お寺との関わりも少ない方々も増えているが、お墓参りも多く、先祖を大事にする気持ちを持っておられる方が多いとのお話だった。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

創建は不明としつつも、辰市村史に「この寺と人と法縁で結ばれていることは千年あまり...」と書かれているように、戦時中からの伽藍整備修復の喜捨記念碑が点在し、1972(昭和47)年新設の鐘楼には富山の名匠の梵鐘も寄贈されている等々、檀家さんの強い気持ちを感じる。ご住職が本堂に奉納された荘厳・天井の絵などを指さしながら、寄進された方のことをにこやかに話される様子にも、強い結びつきが伺えた。墓地内には新しく整備された墓も散見され、辰市郷の4つの大字の墓寺の性格を長く継承しておられるお寺であることを実感した。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	6月	13日	(記入者) 石井宏子	
取材参加者	石井	小西	西田	西野	宮本
	本井				
取材対象先	奈良市：来迎寺の木造阿弥陀如来坐像				

《写真撮影許可済》

文化財指定名 木造阿弥陀如来坐像

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
	
文化財 (安置全体写真)	本堂の天井

	
	

見上げると、檀信徒さんたちから奉納された花の天井絵が彩りを添えている。

文化財の由緒などを記入

阿弥陀如来坐像は等身・定印の阿弥陀仏で、高さ90cmのヒノキ材、寄木造りの漆箔、彫眼。ふっくらとした肉付きで平安後期の定朝様の優美な表現とはっきりした表情や衣文を強く刻むなど、鎌倉時代の特徴も見られる過渡的な作品。12世紀の優れた仏師の作と考えられる像で、かつて、大安寺から移されたとも伝えられている。江戸期の火災では本堂にも火が及んだが、本尊などは無事だった。

所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

奈良時代の開基とも伝わるが、不明。墓地に桃山時代から江戸初期にかけての古碑等が相当数あることから古い来歴と考えられる。表門は一乗院からの下賜という格式をもつ。東九条・西九条・杏・八條の共同墓地があり、ご住職のお話では、江戸初期、墓守のためのお寺だったとのこと。第二次大戦下、四地域の地元の人々の努力で百万霊塔納骨所を建設する等、檀家さんとの繋がりも強く、昭和30年代後半から40年代に山門・本堂・庫裏・鐘楼等を改築・新設され美しい伽藍でご本尊をお守りしておられる。